



# 千葉市立貝塚中学校 学校だより

校訓： 自主・創造・練磨

第12号  
令和8年3月10日(火)発行  
千葉市立貝塚中学校  
Tel.231-7077



## 在校生送辞

### 在校生代表

春の訪れを喜び飛び回る小鳥のさえずり。うららかな陽の光。日に日に膨らみを増す校庭の桜の蕾。その全てが3年生の皆さんの旅立ちの日をお祝いしているかのようです。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

私たちが入学したとき、新入生歓迎会で先輩方は歓迎の歌を歌ってくださいました。私たちはその歌声に圧倒されると同時に、先輩方の存在をとっても大きく感じました。また静と動のメリハリがついた態度を目の当たりにし、貝塚中の生徒になったと実感したことを覚えています。

そのような先輩の後ろ姿に敬意を抱き、一緒に貝塚中をより良くしたいと思いました。委員会活動では、広い視野で物事を見極め、私たち後輩が気づかないような現状や課題を議論したり、右も左もわからない私たちに仕事を教えてくださいました。3年生の皆さんのように、より良い貝塚中を創造していきたいと思っています。



初夏に行われた体育祭。先輩方は、暑さに負けず、一生懸命に練習をしていました。中学校生活最後の「学級対抗リレー」では、どの学級も体育祭で、一位を獲るために、バトンを必死に繋ぐ。心を繋ぐ。声が枯れるまで応援している姿は、クラスの団結の素晴らしさを私たちに示して下さいました。「大地讃頌」の合唱に大きな感動を覚えた貝塚祭。3年生の皆さんの綺麗な歌声は会場だけでなく私達の心にまで響いてきました。朝、昼休み、放課後とたくさんの練習を重ね、全員が心を通わせて最優秀賞を目指すその姿に、私達は練磨することの大切さを学びました。

先輩方を最も近く感じる事ができた部活動。技術だけでなく礼儀や規則なども丁寧に教えてくださいました。決められているから、誰かに言われたから、ではなく、好きだから、目標にたどり着きたいから積極的に取り組む。その姿に、私達は主体的に活動することの尊さを学びました。

私たちがこのように引っ張って来てくださった先輩方が今、この学校を去ろうとしています。ここにいる全員が、もう一度ここに集まることは、もうありません。指の間を砂のようにこぼれていく、この時間が愛おしくて仕方ありません。先頭を走るのは、怖いことだと、今になって思います。誰かの背中を見て走るのは、どれほど安心で、楽だったのか痛感しています。不安と寂しさでいっぱいですが、3年生のみなさんが大切に築き上げてきた貝塚中を、今度は私たちが発展させていきます。本日は、ご卒業おめでとうございます。今日まで本当にありがとうございました。

## 卒業生答辞

### 卒業生代表

暖かい日差しとかすかな風に、やわらかな春の気配を感じる季節となりました。このうららかな日に、私たちは卒業します。あっという間に過ぎてしまった三年間も、振り返ってみるとたくさんのことがありました。

三年前、小学校とは大きく違う環境に緊張しながら臨んだ入学式。あの時はまだゆとりのある制服に身を包み、中学校で何を頑張ろうかなど様々な考えを巡らせながらも、一番に感じたことは、これからの中学校生活に対する漠然とした不安だったと思います。初めて見る校舎、初めて会う先生、初めて話す頼もしい先輩、とにかく出会いばかりだった新たな生活は未だに忘れることはできません。





実感があまり湧かないまま過ごしていた四月はすぐには経ち、クラスの団結力が深まるきっかけとなる学校行事がありました。体育祭です。クラスメイトと交流する機会がより増え、さらに自分が貝塚中学校の生徒であることを深く自覚するようになりました。

すっかり貝塚中学校での生活に慣れ、気付けば一年が過ぎていました。「先輩」と呼ばれるたび、誇りと、昨年たくさん見てきた頼もしい先輩に今度は自分たちになるという責任感、それに伴う一抹の不安を感じるようになりました。二年生になると委員会、部活動などあらゆる場面で学校の中心にいることを痛感しました。私は生徒会長となり、学校のさらなる活性化に努めました。私はそこで幾度となく課題と向き合うことがあり、追い込まれることがありました。しかし、そんなときに私に協力をしてくれたのは学年の多くの仲間でした。それから私は信頼し合える関係を築き、日頃から助け合えるような友だちと、歩みを進めることができました。

中学校生活の中で「最後の」という言葉をよく聞くようになった三年生。最高学年としてどう振る舞い、どう残された時間を過ごすべきかについて考えることが増えました。体育祭や貝塚祭は、一年生の頃とは違い、後輩に尊敬の眼差しを向けられながら応援されたことで、入学した日から私たちが大きく成長したことを強く感じられました。修学旅行では最後の学校外の活動で、金沢ではたくさんの貴重な体験ができました。宿泊先では友だちと多くを語り合ったり、笑い合ったり、秘密を打ち明け合ったことは私の中で鮮明に記憶に残っています。クラスで深めた団結力をもとに、一丸となって最優秀賞を目指した貝塚祭。本音をぶつけ合い、一人一人が本気だったからこそ、対立することもありました。しかし、そのような困難を乗り越え、団結し、互いを尊重し合ったことで、さらに結びつきの強いクラスになりました。本番の合唱では、どのクラスにも圧倒され、強烈に心に残りました。こういった様々な素晴らしい経験を経て、みなさんと共に成長できたことを、私は誇らしく、そして嬉しく思います。



私たちが貝塚中学校での生活を充実させ、入学した時から大きくステップアップできたのは、私たちの身近にいる人たちの影響が大きかったからではないでしょうか。在校生のみなさん。部活動や委員会活動で関わることで、私たちは先輩として成長することができました。先輩たちから受け継いだバトンを今度は私たちが託します。これからの貝塚中学校をよろしく願います。親身に私たちに寄り添い続けてくださった先生方。楽しむ時は共に楽しみ、道を外れそうになった時はいつも正しい方へ導いてくださいました。先生方と過ごし、得たものは卒業してからも助けになると確信しています。本当にありがとうございました。今までずっと支え続け、立派に育ててくれた家族。時には素直になれず、あからさまに嫌悪感を示すようなことをしてしまったこともあります。反抗したり、衝突したりして、何度も困らせてしまいました。しかし、その度にあきらめず言葉をかけてくれて、向き合おうとしてくれました。今まで、素直に気持ちを伝えられなくてごめんなさい。そしていつでも第一に考え尊重してくれてありがとう。これからも心配や不安にさせることがあるかもしれませんが、どうか見守っててください。三年間苦楽を共にし、辛い時には支え合い、嬉しいことがあったら喜びを分かち合った学年の仲間たち。みなさんと三年間高め合い、成長できたことは本当に大切な思い出として、大人になっても忘れることはないでしょう。私たちは、それぞれの進路を歩んでいきます。しかし、ここで、このメンバーで学び合い得たものは大きな糧になったと思います。本当にありがとう。



貝塚中学校での生活を振り返り、一言で表すとしたら、それは「感謝」であると思います。ここまで共に過ごしてきた学年のみなさん。いつでも力になってくださった先生方。私たちを見守り、支え続けてくれた家族。様々な人から受けてきた思いやりは数が知れません。だからこそ、私たちに手を貸してくれた人たちには、感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

私たちは、貝塚中学校を卒業し、それぞれ別の道を歩んでいきます。その中で、何度も困難に直面することがあるでしょう。しかし、貝塚中学校生として、多くの仲間と過ごしてきた三年間を胸に、いかなることにも積極的に、たくましく生きていきます。

最後に、中学校生活での感謝を胸に、精励格勤し、歩み続けることを誓い、卒業の言葉といたします。

